

令和2年度 第4回 碧南市地域福祉計画策定委員会 会議録

1 日時

令和3年2月26日（火）午前10時から午前10時50分まで

2 場所

へきなん福祉センターあいくる 1階 会議室1・2・3

3 出席者及び欠席者

(1) 出席者（各種団体の代表者）

河原厚司、杉浦邦俊、長谷基宏、禰宜田知司、古井露子、鈴木たか子、牧野昭彦、
對馬幸司、永坂幸子、鳥居寛英、立花明德

(2) 欠席者

服部千代美、磯貝雅樹

(3) アドバイザー

日本福祉大学社会福祉学部 野尻紀恵 教授

(4) 事務局職員

ア 碧南市役所

福祉こども部長 杉浦秀司、福祉課長 杉浦浩二、福祉課社会福祉係長 河原睦、
社会福祉係主査 沼田京子、社会福祉係主事 杉浦久美子、澤田直也、板倉尚宏

イ 碧南市社会福祉協議会

地域福祉課長兼地域福祉係長 鈴木利男、地域福祉係主査 古川裕隆、小島誠司

4 傍聴者

1人

5 議事

(1) 議題

次期へきなん地域福祉ハッピープランの計画案について

(2) その他

6 議事の要旨

(1) 議題

次期へきなん地域福祉ハッピープランの計画案について
事務局が会議資料に基づき説明し、その後審議した。

<主な意見・質疑>

- 【委員】：本日は最後の策定委員会となるので、委員全員が意見を述べる機会を与えていただければと思う。
- 【事務局】：それでは順にご意見をお願いします。
- 【委員】：前回計画に引き続き「地域で築く つながり 支えあうまち へきなん」をスローガンに掲げ進めている。碧南市のつながりを大切にして進めていっていただきたい。
- 【委員】：立派な計画ができたと思う。6年後にどのような結果が出るのか分からないが、その結果をまとめて、また次の計画へと生かして欲しいと思う。自分の子ども時代は、隣近所で助け合うことが当たり前で、食事を食べさせてもらったり、預かってもらったりした。今、自分の住んでいる近隣は新しい人ばかりであり、つながりが希薄である。もう少し交流できる機会があればと思う。
- 【委員】：今年度は、地域の会議等、様々な会議に参加した。福祉やあいさつ等、地域について大変勉強になった。今後も福祉に関心を持って生活をしていきたい。
- 【委員】：本計画は全体的に網羅されていて良い計画であると思った。高齢者の比率も上がっており、計画にも高齢者についてたくさん書いていただいている。老人クラブの会員も7,000人を超えており、様々な行事も行っている。市長は健康面で日本一、世界一になると言っているが、老人クラブではそれを目指して健康づくり委員会を立ち上げている。様々な福祉の計画がある中で、市の様々な人が計画に沿って、行政の支援を受けながら、上手に流れについていけるようになると良い。目標全体は大変ありがたい。新たな実践は難しいと感じているが、がんばって欲しい。
- 【委員】：私は1年前から委員会に参加している。最初は全く分からない状態からの勉強であったので大変参考になった。会議を重ねるほど地域に関心を持つようになり、地域のつながりについて考え始めた。私は自分の地区の地域福祉推進会議で話題が出て、実施につながった活動に参加しているが、会議に参加している人だけが活動に参加しており、そ

れ以上の人数を増やすことに対して課題を感じている。他の会議参加者にも話を聞いて、どのようにしたらこの活動が広く認知されるのか、また、推進会議に参加していない人も参加するようになって、地域の活動の輪がもっと広がるためには、どのようなつながりがあれば良いのかが課題であると感じている。また、私の子どもが小学6年生なので子ども会に参加しているが、地区内でどの子がどこの通学団で通うのか等の個人情報には小学校からは得られず、入学説明会の際に各家庭に子ども会の案内を配布し、子ども会入会希望の方が入学式に提出してもらう必要がある。「地域での見守り」「子どもたちのつながりを大切に」と言っているが、子ども会に入らない子が増え、隣近所の子どもの状況把握が滞っていくのではないかと危惧している。個人情報を守ることも大事だが地域のつながりも大事である。難しい判断でもあるが、どうにか解決できる策があればと思う。それぞれの地区に良い目標があるので、個人として地区活動にも協力していきたい。

【委員】：障害のある人にとって、地域とのつながりは大変大事なことである。自分はひとり暮らしをしているが、地域の方々に力をいただいていることを身をもって感じている。また、万が一という時のためにわざわざ自身の電話番号を教えて下さる方もいて、地域の方々に力をいただいていることに心より感謝している。市が様々な情報発信の場を設けているが、それが市民の方々に浸透していると感じている。自分は皆さまの力をいただいているが、地域には、なかなか社会の中に溶け込んでいけない人も多くいると思う。今後も様々な情報を発信していただき、様々な人が力をいただけるように、市も私たち自身も、気持ちを大事にしていきたいと思う。

【委員】：団塊の世代も多くが70代となり、高齢者という立場になってきている。今でも様々な分野で元気に活躍されている方もいるが、健康でいることが一番大切だと身をもって実感している。自分は他の会議なども参加しているが、今年度は新型コロナの影響でいろいろな会合ができない。部屋や人数を限定し、新型コロナ対策をして開催して試みているが、他の参加者から感染が怖くて名古屋に行くだけで怖いと言わ

れることも多い。令和3年度はウェブ会議ができるように通信網をつくりあげ、パソコンやモニターがつながる環境があれば開催できるようにしていく必要があると思っている。こういったことをしないと新しい時代に向かっていけない。愛知県単位で人が集まろうとすると、そういったことを進めていかなければならない。今までは、様々な機会が集まれたが、全然連絡がなくなってしまった人もいる。行政から言われている自主的な活動制限を進めながらつながり続けていきたい。

【委員】：パブリックコメントの状況を聞いて、それぞれの立場でがんばっている人がいると感じた。自分の周囲でも、ひとり暮らしの高齢者の家が、夜中にずっと電気やテレビが付けっぱなしだったときに、心配になった地域の人が安否確認をした、という話や、保育園児のいる保護者が生活上で困ったことがあった時に、ママ友の中で助け合ったりしていた、という話などを聞いたことがある。

地域福祉はフォーマルもインフォーマルも含めた全て支援や制度などに関わることだと思うが、今回の計画に書いてあることの下地は、顔見知りの関係づくりなどであり、これは十分にできていることだと思っている。しかし、野尻先生がいつもおっしゃるように「我が事丸ごと」を地域へ広げて考える必要があると思う。それぞれ人たちががんばっているが、点としてのがんばりになっている。私たちは個人個人なので点でしか動きにくく、地域という範囲に広げた時にはなかなか難しく、やはり行政や社協の力を借りて、どう広げていくかを考えていかなければならない。地域福祉に関わる層をどう広げ、厚みを出すかを見える化することが一番大事だと思う。地域の活動等の下地はそれぞれ点として既にあると思うので、これらをどうつなげ、見える化して、重層化していくかが課題である。

計画を読んで懸念していることは、「コミュニティソーシャルワーク」、「アウトリーチ」等のカタカナ英語が多く出てくることで、イメージとして分かりにくくなってしまうことだ。解説を付けていただき分かりやすくなったが、そこをどう理解を広めていくかについても

検討して行って欲しい。特に「アウトリーチ」という言葉は、辞書には「手を差し伸べること・手を差し伸ばすこと」とある。行政だと「出かける」という意味になると思うが、市民同士であれば、「困っている人に手を差しのぼすこと」が、市民にとっての「アウトリーチ」だと思う。様々な方向からのアウトリーチが重なりあって、地域福祉が進んでいくのだと思う。そういったことを行政からの目線と同時に、地域での生活者としても考え、見える化していただければありがたい。また、「ソーシャルインクルージョン」という言葉があるが、「何人とも取りこぼさず、取り残さず」ということだと思う。碧南でも、誰ひとり取り残しが無いようにしていきたい。

【委員】：自分は色々な団体の活動に参加しているが、その中で一番大事なことは、隣近所の声かけ運動だと感じる。月1回日にちを決めて、朝7時30分くらいから学校の校門に立ってあいさつ運動をしているが、幼稚園から小学6年生までの子どもたちが顔を覚え、声をかけてくれるようになった。若い年代と私たちの年代では考え方が違うが、それぞれが自分で自信を持って声かけができると思う。自分で声をかけていかないと、誰も声をかけてくれない世の中になってしまったと感じる。多くの人に協力をお願いし、広がっていくと良いと思う。

【委員】：概要版を50部印刷するということだが、読みやすいように配慮してほしい。第6章が特に大切だと感じた。第6章は短くすっきりしており読みやすかった。また、改めて「福祉」は範囲が広いと分かった。困った人が連絡する先や相談する先などの連絡一覧が分かりやすくなっているとよいと思う。

【事務局】：相談などの連絡先については、迷ったら福祉課か社協に相談していただければと思います。計画にも記載しているが、各機関と連携し、こぼれのないように支援をしていきます。

【委員】：小中学校代表として参加しているが、学校という場合は、保護者、学校、地域の連携が大切であり、子どもたちを皆の目で見育てていく方針がずっと続いている。学校としても地域との連携は絶対に必要であり、中学生ボランティアなど様々な活動を通して地域の方々にお世話にな

り、地域との交流を深めている。福祉活動としては、小学校も中学校も、福祉実践教室や総合学習の福祉の教育等を行っており、将来的に地域福祉の担い手を育てることが学校の役割だと思っている。今後も継続して、この地域福祉に焦点をあてながら教育を続けていきたい。

【事務局】：本日、委員の皆さまよりいただいたご意見を踏まえ、今後も進めてまいります。

(3) その他

事務局から口頭にて、次年度会議の実施案内について連絡。

(4) アドバイザー（日本福祉大学社会福祉学部 野尻紀恵 教授）による総括

委員の皆さまのご意見を伺いながら総括を考えていたが、ひとつは、地域福祉について皆で考える場があることが、とても重要であると思った。地域福祉計画を立てるために検討すること自体が福祉教育となっている、という考え方もある。子ども会の課題として、個人情報の壁によりつながりが薄くなっているという意見や、また、ボランティアに参加している人たちからの意見などもいただいた。計画はできたが、そこに肉付けしていく重要なご意見であり、そういった地域の話ができる場がとても重要である。碧南市のいいところは、計画をつくって終わりではなく、その後もずっと地域福祉推進会議を進めてきたということである。今回計画を策定し、次年度からどうしていくかについて、早速考えて始めていってほしい。前回の第3回の会議から修正された、地域福祉推進会議の図についてだが、個別の事案と地域の間をつくる部分、その中で課題が解決され、相乗効果が表れていく、そんな図になると良いと意見したことを踏まえ、社会福祉協議会と福祉課に随分話し合っていた。この話し合うこと自体も、とても重要だと思っている。図にも十分落とし込んでいただいたが、今委員の皆さまからいただいたご意見も基にしながら、まずは推進団体である社協と福祉課が思いをひとつにし、計画を形だけで終わらせないことが重要だと思う。碧南市の計画の一番の売りは、「地域ごとに具体的な目標が立てられている」ことである。そのため、膨らませやすく、効果も図りやすい。計画は素敵なものができたと感じているので、あとは形で終わらせないことだ。皆さまが意見を言いながら、風通しのよい碧南をつくるために、今の活動をさらに充実させるためにはどうすべきかを考えていってほしい。一方で、取り残されている人がひとりでもいないか、いたしたらどのようにするか、考えていくことも必要だと思う。委員の皆さまのご意見

のおかげで、立派な計画ができたことを感謝するとともに、今後も碧南を充実するためにご協力をお願いします。